広報蕨　八四九号　令和三年七月一日発行　毎月一回発行　印刷・㈱秀飯舎

輝いてます ひと

科学体験教室　講師

棚橋 洋三（たなはし ようぞう）さん

「原動力は子どもたちの笑顔です」と棚橋さん

わっと驚く楽しい科学体験を

「科学を楽しんで興味をもってもらいたい」と話すのは、10年以上にわたり公民館などで子どもたちに科学の魅力を伝えている棚橋洋三さん（77歳・錦町2丁目）です。レモンを電池にしてLEDを光らせたり、ビー玉で顕微鏡を作ったりなど、身近にあるもので実験をする教室（お知らせ版8ページ）は、毎年大人気で、リピーターも出るほど好評を博しています。

40年以上前から個人塾を開き、地域の子どもたちに勉強を教えていた棚橋さん。知り合いに誘われ、西公民館のスタディルームで宿題を教え始めました。子どもと同じ目線に立ち、自作した道具やプリントを使って「なぜ？」を解消する教え方は分かりやすいと評判になり、参加者が一つの部屋に収まらないほどの大盛況になることも。その腕を買われ、同公民館で科学体験教室の講師を始めました。

棚橋さんはこれまでの教え子たちの姿から、体験を通じて科学の楽しさに気づけば、自分からどんどんのめり込んでくれると感じていました。興味を引くために身近なもので驚きを与えられるテーマを考え、実験の装置は全て手作りしています。ときには深夜まで作業することもありますが「みんなの喜ぶ顔を思えば大変ではないですね」と、にっこり。そんな棚橋さんの教室には、科学のおもしろさに触れた子どもたちの歓声と笑顔があふれています。

「子どもがいきいきと過ごすには遊びを通して学ぶことも大事ですね」と話す棚橋さん。現在は、子どもたちに自由な遊びの場を提供している「ぽっかぽか」の手伝いもするなど活躍の幅を広げています。これからも、子どもたちの不思議を解き明かす、楽しい体験を通じて、地域に好奇心の種をまいていきます。

今月の河鍋暁斎記念美術館

天才絵師の作品 蕨にあり

—No.62—

「狂斎（きょうさい）」時代の暁斎が、ことわざに絵を付けて小判錦絵（小型の多色摺（ずり）木版画）として出版した「狂斎百図」は、姿や形を変えながら明治20年代まで出版され続け、江戸・東京の庶民に広く愛されました。こちらの「すずめ踊り」は「雀（すずめ）百まで踊りは忘れぬ」のことわざを表しており、物語『舌切り雀』に登場するおじいさんが、江戸時代に流行した「すずめ踊り」の衣装をまとった雀たちから歓待を受ける様子を描いています。

本作品は現在の展覧会で御覧いただけます

暁斎筆「狂斎百図」より「すずめ踊り」部分
文久3年-慶応2年（1863-66）若与板　大判錦絵

河鍋暁斎記念美術館　開催中

「暁斎が描くいきもの—写生から戯画へ—」展 同時開催
特別展「華やかな『暁斎楽画』の世界—複製本より—」展

開　館＝午前10時～午後４時
休　館＝火曜日、木曜日、毎月26日～末日
ところ＝南町４-36-４
入館料＝一般600円　高校生・大学生500円
小・中学生300円　65歳以上500円
※65歳以上の人は年齢の分かる物、学生は学生証をご提示ください
詳　細＝同館（☎441・9780）

詳しい内容は美術館のホームページをご参照ください

yosai Kawanabe

現在の茨城県古河市に生まれる。浮世絵や狩野派を学び、江戸・東京の庶民から人気を博す。明治９年、万国博覧会に肉筆画を出品。14年、内国勧業博覧会で日本画の最高賞受賞。娘の暁翠も日本画家。

河鍋 暁斎（かわなべ きょうさい）
天保２年（1831）
～明治22年（1889）

広報紙に載っている写真を希望者に差し上げます（一部を除く）　秘書広報課広報広聴係までご連絡ください